

## 1. 森鷗外の歴史小説を読む

(分野：日本文学)

講師： 守安 敏久

実施日・時間： 7月22日(月) 9時30分～16時

会場： 宇都宮大学峰キャンパス  
UU プラザ 2F コミュニティフロア

対象教員： 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

定員： 30名

準備等： 森鷗外『山椒大夫・高瀬舟』(新潮文庫)を各自、事前購入。教材とする作品を事前に読んでくること。

概要： 森鷗外の歴史小説「興津弥五右衛門の遺書」「護持院原の敵討」「山椒大夫」「最後の一句」「高瀬舟」を扱い、鷗外の文学的な方法と思想を考察します。安寿と厨子王の物語「山椒大夫」、安楽死の是非を問う「高瀬舟」など、多くは親しみやすい作品です。教材とする作品を事前に読んできてください(新潮文庫『山椒大夫・高瀬舟』所収)。この新潮文庫をテキストとしますので、各自の責任で事前購入をお願いします。

## 2. 子ども達がつながる深い学習

(分野：授業の方法・分析)

講師： 溜池 善裕

実施日・時間： 7月31日(水) 9時30分～16時

会場： 宇都宮大学峰キャンパス 8号館C棟2階 大会議室

対象教員： 小学校・中学校

定員： 40名

準備等： 特になし

概要： 学習指導要領では従来の知識・技能・思考力・判断力・表現力に加えて、「学びに向かう力」や「人間性の涵養」が求められるようになりました。子ども達が育つことを大きくとらえ、どのように学習を設定しそれを授業という形で実施していくかは、考えるべき大きな課題です。その課題に向けて、学習指導では具体的にどんなことをすればよいのかについて、具体的な実践の授業記録をもとに検討しながら受講者といっしょに考えていきます。

### 3. 学校改革の実際と課題

(分野：教職大学院)

講師： 小野瀬 善行

実施日・時間： 8月1日(木) 9時30分～16時

会場： 宇都宮大学峰キャンパス 6号館B棟1階 演習室

対象教員： 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校  
(教職5年目以上の経験者)

定員： 15名

準備等： 特になし

概要： 組織としての学校をエンパワメントしていくことは、日々の教育実践を充実させるために重要です。自らの経験や実践をふりかえりながら「学校づくり」のためにどのような理論が唱えられてきたのかを考察し、よりよい学校づくりのための複眼的な見方を学ぶ機会が求められます。本セミナーでは、学校改善のための理論や事例を踏まえ、学校改善のための取り組みについてプレゼンテーションを行うなどの演習を進めていきます。

教育実践高度化専攻(教職大学院)の院生と一緒に学びます。

### 4. 子ども理解と授業力向上を目指して①

～発育期の運動発達・集団の中で支援を必要とする子どもの学び～

(分野：特別支援教育・保健体育)

講師： 加藤謙一・司城紀代美

実施日・時間： 8月1日(木) 9時30分～16時

会場： 宇都宮大学教育学部附属特別支援学校

対象教員： 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

定員： 40名

準備等： 特になし

概要： 本セミナーは、子ども理解と授業力向上を目指し、教育学部附属特別支援学校で学部教員2名により開講いたします。

前半はビデオを使った授業リフレクションを体験しながら、子ども理解の在り方や授業改善について考えます。特に集団の中で支援を必要とする子どもがどのように学んでいるか、子ども同士のかかわりはどのように生じているのかに焦点をあてます。

後半は発育期の運動発達の特徴を解説し、現代の問題点とその解決の手がかりを探ります。また、基本的な動作に関する観察の観点を示し、指導者に必要な運動観察力を高める演習も行います。

## 5. 教師も楽しむ理科実験

(分野：理科教育)

講師：南 伸昌

実施日・時間：8月5日(月) 9時30分～16時

会場：宇都宮大学峰キャンパス 8号館C棟3階 理科教育学学生実験室

対象教員：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

定員：24名

準備等：白衣、もしくは実験用着衣。安全メガネ(貸出有り)。ハサミ。

概要：以下の実験や工作を扱う予定です。(ご要望等により変更の場合あり)

- ・ものの重さ：(誤)概念/軽いものの計量
- ・燃焼：炎の性質/燃える条件/固体、液体、気体の燃え方/水素の発生と性質の確認
- ・水溶液：酸、アルカリ性とは/身の回りの試薬・指示薬/電気泳動/化学電池
- ・電気、磁石：発電、蓄電、利用/超簡単モーターのしくみ
- ・光(身近な屈折)：陽炎/シュリーレン現象/全反射

※実験に適した楽な服装で来てください。(作業着、ジャージ可)

## 6. 授業研究の運営と課題

(分野：教職大学院)

講師：松本 敏・人見久城

実施日・時間：8月5日(月) 9時30分～16時

会場：宇都宮大学峰キャンパス 6号館B棟1階 演習室  
及びティーチングcommons

対象教員：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校  
(教職5年目以上の経験者)

定員：15名

準備等：特になし

概要：学校内外での教員研修やそこで行われている授業研究の実態と課題について議論し、授業研究の質を高める議論の在り方についても省察と討論を通して考えます。ビデオ視聴により授業分析を行い、授業のねらい、子どもの理解との関係で論じ合い、授業改善の方策を考えます。

教育実践高度化専攻(教職大学院)の院生と一緒に学びます。

## 7. 子ども理解と授業力向上を目指して②

～理科・美術を通した子ども理解と未来～

(分野：美術／図画工作・理科)

講 師： 梶原良成・出口明子

実施日・時間： 8月5日(月) 9時30分～16時

会 場： 宇都宮大学教育学部附属特別支援学校

対象教員： 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

定 員： 40名

準備等： 特になし

概 要： 本セミナーは、子ども理解と授業力向上を目指し、教育学部附属特別支援学校で学部教員2名により開講いたします。

前半は、科学の不思議について、遊びを通して学べる教材を扱います。ワークショップ形式で体験しながら、子どもたちが科学を楽しめる工夫や配慮について、一緒に考えていきます。

後半は、支援を必要とする子どもたちにとっての図画工作・美術について考えます。将来の美術との関わり方について、事例をスライドなどで見ていながら、図画工作・美術の授業のあり方について探っていきます。

## 8. 子ども理解と授業力向上を目指して③

—障害状況にある子どもを理解するということ：

教育的係わり合いからの検討—

(分野：特別支援教育)

講 師： 岡澤 慎一

実施日・時間： 8月6日(火) 9時30分～16時

会 場： 宇都宮大学教育学部附属特別支援学校

対象教員： 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

定 員： 40名

準備等： 特になし

概 要： 本講座では、“障害”の種類や程度に関わらず、障害状況にある子どもを理解する営みとはいかなるものであるかについて検討を重ねます。教育的係わり合いに関する映像資料をふんだんに紹介し、受講者全員でやりとりを重ね、上記の問いへの接近を試みたいと思います。今回は、主に知的障害事例との教育実践を取り上げます。なお、本講座は、各種検査法や指導プログラム等を紹介するものではございませんのでご留意ください。

## 9. 鍵盤ハーモニカを吹こう

(分野：音楽教育)

講 師： 新井 恵美

実施日・時間： 8月8日(木) 9時30分～16時

会 場： 宇都宮大学峰キャンパス 7号館2階 音楽ホール及び演奏室

対象教員： 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

定 員： 25名

準備等： 32鍵以上の鍵盤ハーモニカ、ショルダーバッグのストラップ

概 要： 小学校の音楽の授業や合奏で用いられることの多い、鍵盤ハーモニカ演奏の講座です。教育用楽器と思われがちですが、近年はプロのプレイヤーも登場しています。この講座では、様々な奏法や演奏スタイルについて勉強し、その成果を創意工夫に満ちた魅力ある合奏や児童等の演奏技術の向上に役立てていただきたいと考えています。最後に、受講生それぞれに演奏をしていただきます。

## 10. 数学的に考える力を育てる授業をつくる：子どもの姿に着目して

(分野：数学教育)

講 師： 日野 圭子

実施日・時間： 8月8日(木) 9時30分～16時

会 場： 宇都宮大学峰キャンパス 8号館A棟3階 8A34教室

対象教員： 小学校・中学校(数学科)

定 員： 30名

準備等： 特になし

概 要： 算数・数学科において、数学的に考える力の育成は、益々その重要性が高まっている。本講座では、思考力育成に関わる数学教育研究の動向等から、授業づくりのポイントを紹介する。その際、子どもの問題解決の様子についてのデータも示し、数学的活動を授業に取り入れる手立てや教師の役割について考察する。

講義は、グループワーク等を取り入れながら進めていく。話し合いを通して、数学的に考える力を育てる視点の多様性を知るとともに、自身の授業について振り返り、視野を広げる機会となるようにしたい。

## 1 1. 初等整数論 ―合同式と素数の魅力―

(分野：数学教育)

講 師： 鈴木 拓

実施日・時間： 8月19日(月) 9時30分～16時

会 場： 宇都宮大学峰キャンパス 6号館A棟1階 6A12教室

対象教員： 中学校・高等学校(数学科)

定 員： 50名

準備等： 特になし

概 要： 本セミナーでは、整数論の入門として、合同式についての講義を行う。フェルマーの小定理やオイラーの定理について理解し応用できるようになること、そして素数の持つ美しい性質について理解を深めることを目指す。学校教育における数学科(主に「整数の性質」)の内容の背景にある理論について、演習を交えながら解説する。

## 1 2. ヨーロッパ・ドイツにおける死と墓地の歴史

(分野：西洋史)

講 師： 下田 淳

実施日・時間： 8月20日(火) 9時30分～16時

会 場： 宇都宮大学峰キャンパス 8号館A棟3階 8A34教室

対象教員： 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

定 員： 50名

準備等： 特になし

概 要： ドイツの墓地は19世紀以前の「教会墓地」(キルヒホーフ)から、19世紀以降「市民墓地」(フリートホーフ)へ変遷したといわれる。前者が教会共同体によって管理されるものなら、後者は、市民共同体によって管理されるものとなった。キルヒホーフは「生者と死者が共存した空間」、フリートホーフは「死を隔離・隠匿した空間」であった。

本講義では、ドイツ中近世の墓地と死者儀礼を概観した後、19世紀近代以降、墓地と死者儀礼がいかに変容していったかを概観する。

### 1 3. 教科等横断的視点からの授業づくり

(分野：教科教育)

講 師： 森田香緒里・人見久城・山野有紀・久保元芳

実施日・時間： 8月20日(火) 9時30分～16時

会 場： 宇都宮大学峰キャンパス 5号館C棟2階 5C21教室

対象教員： 小学校・中学校

定 員： 40名

準備等： お手持ちの学習指導要領をご持参下さい。

概 要： 学校教員に求められる新しい資質・能力の一つに、「教科等横断的視点に基づくカリキュラム・マネジメント」が挙げられているが、その具体的な手法については全国的にまだ試行段階にある。宇大教育学部では、「教科等横断的視点」をどのように持ち、授業づくりにどのように生かすか、また「深い学び」をどのように実現するか等について、複数の大学教員が共同で授業実践・研究を行ってきた。本セミナーでは、その実践事例を紹介するとともに、受講生間でも教科横断的視点に立った授業づくりについて提案・議論していただく。

一部、ワークショップ形式で行います。

### 1 4. 人権としての〈性〉を考えよう

(分野：人権教育・性教育)

講 師： 良 香織

実施日・時間： 8月20日(火) 9時30分～16時

会 場： 宇都宮大学峰キャンパス 5号館C棟2階 5C22教室

対象教員： 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

定 員： 30名

準備等： はさみ

概 要： 人間らしく生きるにあたって性は深く関わっています。性に関わる事柄について、科学的な知識とスキル(方法)をえて、性的自己決定能力を高めること、そして多様な選択を保障する社会のしくみをどう創っていくかは重要です。ここではユネスコの国際セクシュアリティ教育ガイダンスを紹介しつつ、日本の実践を共有したいと思います。人権としての性の学びとは何かを一緒に考えましょう！